様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

コース等名	国際教育コース	記載責任者	小澤　大成

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員就職率向上方策について

本学は第二期中期目標・中期計画において、「学士課程において教員就職率を70%以上にする」と明記している。教師を目指す学生が一人でも多く自己の進路希望を実現できるよう、この数値目標を達成するのはもちろんのこと、より一層教員就職率を上げるため、貴専攻・コースではどのような取り組みを行うか。具体的な方策を示してほしい。

1．目標・計画

国際教育コースは学部がなく大学院修士課程のみのコースであり，コース所属の学部学生は存在しない。ただしコース所属教員は学部の授業を担当しており，その授業の充実を通じて教師を目指す学士課程学生の進路希望実現に貢献したいと考える。コース所属の日本人修士課程学生については，講義や演習を通じて教員としての資質向上を図っていく。

2．点検・評価

学部授業を担当しているコース教員はそれぞれの講義において教師を目指す学士課程学生の進路希望実現に貢献するべく教育制度・経営や環境問題に関する講義，地学に関する実験などを実施した。コース所属の日本人修士課程学生については，教育実習の事前事後指導における模擬授業実施や実習の振り返りを通じて授業実践方法を指導した。また外国語運用能力強化演習Ⅰにおいて英語による模擬授業を課し，異文化理解を伴った教員養成を図った。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

1．理論的な講義と授業観察・教材開発・模擬授業・リフレクションを効果的に組み合わせることを通じて，実践的な授業指導力の向上を図るとともに，教員教育国際協力センターと連携し，途上国の教育関係者の研修に積極的に参加させ，教育開発の事例や文化的多様性に触れさせたい。
2．本コースのみ，国際教育コース院生研究室がない状況がコース設立以来続いている。昨年度は引き続き様々な機会を通じて大学当局に働きかけたが研究室確保に至らなかった。大学院生の研究環境整備のため，今年度こそぜひ確保したいと考える。
3．JICA長期研修員および私費外国人留学生については言語系(国語)，自然系（数学）及び自然系（理科）の各コースおよびチューターと連携し教育・学生生活支援を実施する。

2．点検・評価

1．コースの講義・演習においては，理論的な講義と授業観察・教材開発・模擬授業・リフレクションを効果的に組み合わせ，実践的な授業指導力の向上を目指した授業展開を実施した。また教員教育国際協力センターが受託したJICA研修に積極的に参加させ，途上国の教育事情・文化的多様性に触れるとともに，授業改善の過程を研修員と共に体験することができた。
2．院生研究室については大学当局のはからいにより後期より仮の院生研究室を確保し，次年度より恒常的な院生研究室を配分されることとなった。
3．JICA長期研修員及び私費外国人留学生については，その興味関心に応じて言語系(国語)，自然系（数学）及び自然系（理科）の各コースと連携し教育を実施した。またチューターによる支援も実施した。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

1．科学研究費補助金や学内外の研究資金の申請・獲得を通じて，国際教育協力に関する研究を行う。特に本学が受託しているJICA研修の立案・実施・評価に関する研究を，事前調査，研修時の質問票調査，フォローアップ調査によって行い，授業改善に研修がどのように裨益しているのかという研修効果や，途上国の現状の授業を踏まえ，より良い方向に導く研修の在り方について明らかにしたい。
2．教員協力国際協力センター国際教育開発研究分野での研究活動と連携させ，ユネスコスクール事業及び途上国など、国内外における持続的な発展のための教育（ESD）に関する実践的研究を行う。

2．点検・評価

1．コース所属の教員1名が新たに基盤研究Cを獲得した。また科学研究費若手Bを用いて昨年度と継続して研究を実施している。またJICA研修の立案・実施・評価に関する研究に関して，フォローアップ調査を9月に南アフリカ（コース教員1名参加），2－3月にカメルーン（コース教員2名参加），3月にケニア（コース教員1名参加）において実施した。フォローアップ調査では研修による現地の教育の質向上への貢献を明らかにした。これらは26年度以降の研修に反映される。
2．ユネスコスクール事業における持続的な発展のための教育（ESD）に関してセンターと共同でフォローアップを実施した。またザンビアにおいて9月，11月および3月に現地調査を実施した（コース教員延べ4名参加）。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

1. 大学の各種委員会に積極的に参加し，大学運営の活性化に貢献できるようにする。
2. 国際教育コースの教育に関し，学内外の関係部局・諸機関との連携を密にし，方法・内容の充実を図る。
3. 大学院定員確保策の一環としてJICA長期研修生の獲得に向けて、JICA関係部局に働きかける。

2. 点検・評価

1. 各教員が各種委員会に積極的に参加している。またコース教員の1人は国際交流担当の副学長として大学運営にかかわっている。
2. 学内の言語系（国語），自然系（数学）および自然系（理科）の各コース，JICA四国支部と密接に連携し，方法・内容の充実を図った。
3. 昨年度大学当局に働きかけ実現した秋季入学の制度を用い，人材育成支援無償（JDS）事業による修士学生の獲得を図った。残念ながら未採択であった。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

1. JICA四国と連携し，総合教育センターの国際理解教育に関する10年次経験者研修を実施する。
2. 国際理解教育に関する公開講座を実施する。
3. 国際理解教育に関する教員免許状更新講習を実施する。
4. JICAから本学が受託する研修に，研修統括や講師として参加する。

2. 点検・評価

1. 8月にJICA四国と連携し，総合教育センターの国際理解教育に関する10年次経験者研修を実施した。
2. 5月の国際理解教育に関する公開講座を実施した。
3. 8月に国際理解教育に関する教員免許状更新講習を実施した。
3. JICAから本学が受託した全ての研修においてコースの全教員が講師あるいは研修統括として参加した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）